

ワンポイントアドバイス：「ユーモア」

「授業は真剣勝負」であると言います。それは、教員と子供たちが知識と全身全霊を使って、新しい発見をする場であるからです。子供たちが心身ともに成長することは私たち教員としての使命であり責任です。そのためにみなさんも日々研鑽をしていることと思います。また、教員となってから同僚や保護者、地域の方々とも関わり合うことで、社会人としての自覚に目覚め、態度や接遇、会話などへの配慮もできるようになってきていることでしょう。

みなさんが、教員としてまたは社会人として、真面目にかつ真剣に対応することは大事なことです。しかしそのことと、どのような相手ともコミュニケーションを良好に保つということは、必ずしもイコールとは言えない場合があります。

どんなに正しい意見であっても、相手に受けとめてもらわなければ伝わりません。そんな時、コミュニケーションのための潤滑剤として有効なものが「ユーモア」です。「ユーモア」を一言で表すことは難しいことですが「思わず笑いがこみあげてくるような温かみのあるおもしろさ」ととらえるとよいでしょう。

たとえば授業にしても、子供の立場からすると、学習が好きな子供には楽しい場合も苦手な子供や集中力のない子供にとってはどうでしょうか。そういうときには、日頃から練習している「ダジャレ」を…する必要はありませんが、相手を楽しませようとする気持ちをもって臨むことです。難しい話ばかりで子供たちが意欲的に取り組めない時や深刻な雰囲気になってしまう時に、子供たちにわかりやすい言葉で、身近な話題や自身の体験談を話すことで、聞き手の子供たちは興味や好感をもつことができます。

また、職員室で他の教員と話をする時も真面目な態度は大切ですが、いつも同じ四角四面な態度では相手に気を遣わせるだけでなく、敬遠されることもあります。保護者や地域の方々に対する場合も同様で、相手の関心や興味にあわせて話題を選び、少しオーバーに驚いたりするなど、相手を楽しませようとする気持ちをもつことは、気持ちよく相手が話せるようになることにつながります。

一方、ユーモアは大切な精神ですが、気をつけなければならないこともあります。ある種の「ユーモア」と呼ばれるものの中には、人によって不愉快、気が利いていない、つまらないと感じられるものがあります。また、独りよがりなもの、人を傷つけるもの、差別にあたるものなど、相手の人権を侵害するようなものは、「ユーモア」としての資格を持ちえません。あくまでも「相手の気持ちを考えること」こそ、ユーモア精神の基盤なのです。

「もっとこのひとの話が聞きたい」と思われるように、ユーモアのセンスを磨き、心に余裕をもって勤務するように心がけましょう。

